



NO.

いちよう

発行所

待乳山 本龍院

〒111 東京都台東区浅草7-4-1

-0032 TEL. 03(3874)2030

FAX. 03(3874)5280

視野

住職 平田真純

江戸時代に描かれた浮世絵には、江戸名所の風景や俯瞰図を描いた作品が数多くありますが、その構図の中に富士山や筑波山が加えられることがよくあります。今でも東京都内で、場所によっては、天気の良い日に富士山や筑波山を見ることができますが、当時は空気もよく障害物も少なかったのも、もともと多くの場所ですれいに見えたことでしょう。

また高輪や品川を描いた作品には、房総半島が江戸湾（東京湾）を隔てて間近に描かれています。

待乳山の山上からも、隅田川の流れ、向島の風景はもちろん、天気が良ければ、はるか千葉の方まで見渡せたようです。

考えてみれば、現代の都会に住む私たちは、ずいぶんと遮られた視界の中で生きていくことになります。心の視野も、もしかしたら狭くなっていくかもしれません。視野の広がった昔の方が、ある意味、神様仏様の力を感じる力も強かったかもしれません。

待乳山に上り、木々豊かな自然を感じていただき、高速道路やビルに囲まれてはいますが、山上で往年の景色をしのんでいただき、さらに本尊聖天様のお力、千四百年来の多くの信徒の功德の力を感じていただければ、きっと心の視野の拡大につながると思います。

視野・視界というものは、広さ・奥行・角度など様々な側面があると思いますが、私たち凡夫はどうしても自ら狭めたり、偏ったりしてしまうものだと思います。神様仏様のお力というものは、それを広げたり、矯正していただけるものでもありません。

本堂での参拝・お勤め、浴油祈禱や法要、諸行事への参加など、直接聖天様の靈験に触れていただければ、より広く、より深く、違った角度から物事を見るヒントを期待できるのではないかと思います。

なかなか思い通りの御利益がいただけないという方も、中にはいらつしやいますが、それはご自身の視野と聖天様の視野に差があるからではないでしょうか。聖天様の視野を信じ、かつ聖天様の目になうように努力すべきであると思います。

待乳山便り

杉本真海師 華水供一千座満行

昨年(2016年)の八月一日より聖天行者としての修行に入られていた杉本真海師が、七月十日に華水供一千座を無事満行いたしました。



華水供一千座満行の後、当山僧侶出仕の下、法要を行い、住職からより一層精進するようお言葉を授かりました。今後も行者となるため、十一面供、如法供とさらに修行を続けていきます。

金原亭馬生師匠主催 江戸の旅ツアー 報告

七月四日、落語家の金原亭馬生師匠の旅「江戸の旅ツアー」御一行様、四十名が待乳山にいらっしやいました。



玄関には待乳山の歴史を説明したパネル、大広間には待乳山の描かれた浮世絵を展示し、住職から解説がありました。特に江戸の歴史について興味のある方が多く、皆様大変満足されたようです。

集まろう待乳山聖天！浅草打ち水イベント 報告

七月二十一日、夏の猛暑が続く中、暑さを吹き飛ばす打ち水のイベントが行われました。打ち水は毎年この時期に浅草法人会主催で行われており、今年も当山での開催となりました。

当日は約五十人の会員の皆様に参加された他、浅草法人会のマスコット「けんた君」と税務署のマスコット「イータ君」も参戦。十二時半より一斉に打ち水を行いました。五十四度あった車道は打ち水後には四十四度にまで下がり、参加者からは驚きの声があがりました。



株式会社新進 法要報告

七月二十九日、今年も「しんしんの福神漬け」で有名な株式会社新進の事業繁栄を祈願する大般若法要が執り行われました。



福神漬けの由来については諸説ありますが、美味しい上に安価で自然に節約ができることから、福の神のようだとということで名づけられました。福々しいたくさんの漬物が御宝前にお供えされ、御揃いの青い絆纏を来た社員の皆様が会社の益々の発展を祈願されました。

信徒旅行のご案内

十月二十八日(日)〜二十九日(月)、生駒聖天、石切神社、四天王寺を巡る参拝旅行を企画しております。参加希望の方はお早めにお申し込みください。

参加希望の方はお早めにお申し込みください。
応募締切 九月二十七日 参加費 五万八千円
定員四十名(最少催行三十名)

九月御縁日大法要 行事紹介

開山会大法要

九月二十日(木) 午前十一時

講金 三、〇〇〇円

九月二十日は、当山の開山日を祝う開山会大法要を行います。

当山縁起によれば、推古天皇三年(五九五年)の九月二十日に一夜にして霊山が隆起し、金の龍が舞い降りて守護したのが当山の開山であるとされています。六年後の夏、この地方が大旱魃に見舞われた際、十一面観音様が聖歡喜天の姿となってこの待乳山に降臨し、雨を降らせて万民を救ったとされています。

さらに時は流れて天安元年(八五七年)、慈覚大師円仁が東国巡行の際、当山に参籠して二十一日間の浴油の修法を行い、国家鎮護の祈願をされ、十一面観音様を彫られました。それ以来、聖天信仰の中心地として、脈々と信仰が受け継がれ、今日の待乳山に至っています。

当日は十一時より住職が点てたお茶を御宝前にお供えする『献茶の儀』が行われます。

また法要終了後は、神楽殿にて神楽が奉演されるほか、大広間にてお抹茶の接待がございます。

皆さんと聖天様とのご縁が深く結ばれますようご参加をお待ちしています。



大聖歡喜天利生記

神仏が衆生に利益を与えることを利生りしょうと呼びます。かつての当山誌『歡喜』に掲載された信仰体験談をシリーズでご紹介いたします。

信心の「こつ」① 高松 信次郎

(歡喜二十号 昭和五十年発行より)

「奉行は大岡、大師は弘法」とまで言われた江戸の名奉行大岡越前守が、なんであれ程迄に有名になったのかというと、お聖天さま(以下「お山」と呼びます)のご利益なんです。私の父の話ですと、大岡さまは赤坂の豊川稲荷さんの近くに屋敷を持つていながら、浅草のお山さまに信心していたそうです。

昔からお山さまを信心すると「七代の福をとられる」という間違った言い伝えがあります。然しこれから先の未来や運は解かるはずがない事です。前世の七代はあるが、来世の運まで取れっこありません。

この「七代の福」の誤解は、お山さまのご誓願に「我を心正しく信する者には草の根を分けても、又瓦を一枚一枚はがしてもその者を救ってやる」とあるように、お山さまへご縁をいただければ、

例え今現在必ずしも心正しくない者であっても、お山様が「前世のどこかに良いことをしていないか」と先祖七代までさかのぼって福になる原因を探して来て下さる。そうして良いことをしていれば、それに免じて良い果を与えて下さるという事なのです。過去の良い点を探し出して、それにむくいて福を授けて下さるというのです。それを誤解して、間違った解釈を信じ、周囲の人々の七代の運をとつてくると恐れられているのでしよう。

大岡越前守は、このお山様のご誓願を自分の仕事にも忠実に実行しました。罪人を捕えてくると必ずどこかに良いことをしていないかと、下役を使ってその罪人の生まれた時から捕まるまでのことをこまかく調べたのです。

「この者はこんな悪い事を積み重ねている。」と悪人、罪人として悪い点は徹底的に追求する。然し一方で「こういう良い事もしている。この時はこんな悪いことをしているがこういう良い時もあった。だから宜敷くご裁決下さい」と調書に書いて老中に提出するのです。このような調書が出されますと、時には老中としてもその判断に迷い、慎重に審議して手間どり中々決断を下せない事件もあります。そんな時はその男を坊主にして裏口から逃したそうです。

聖天さまの誓願のように草の根を分け瓦をはが

してまでも善い点を探し出してご利益を与えてやることを実行していたのです。

尤も私自身も、十四才の時学校を卒業し奉公に行く時おふくろさんに連れられて初めてお山さまにお参りに来て以来五十年続いています。最近までそのような誤解を受けるのが嫌で、あまり他人には聖天さまを信仰していることを言いませんでした。

この間ある人から「信心していても不安が起きたり迷ったりするのは、まだ自分のお参りの仕方が悪いのでしょうか。一体ご利益はいただけるのでしょうか」と質ねられた方がありました。

それについて私なり見解を述べさせていただきますと、よく「自力」とか「他力」という言葉があります。「自力」とは先祖代々の人々がつくった良い行いを見習って自分が精進することです。一方「他力」とは仏さまの教えに従うことだと思っております。

私たちがお山にお参りする時、お山さまを自分の意志でお参りに行って自力の行だと思いがちです。しかし同時に、お山さまが私たちを呼んでくださっているのです。仏様に呼ばれておまいりすれば、他力本願です。(次号に続く)

※当時掲載された文章を再編集しています。(文責 編集部)

九月行事予定

御縁日大法要

開山会大法要

九月二十日(木) 午前十二時

講金 三、〇〇〇円也

当山の開山日を祝う法要を行います。また大広間にてお抹茶が振る舞われます。

朝まいり会

九月一日〜七日

午前八時から八時半

会費 五〇〇円也

都合のよい日に、ご参加くださっても結構です。七日には齋食後、法要があります。

日曜勤行

九月九日(日)

午前九時

参加費 無料

初心の方も気軽にご参加いただけるおつとめの会です。

写経の会

九月九日(日)

午前十時/午後一時

会費 五〇〇円也

心を落ち着かせて写経することで、日常を離れ、自分を見つめ直しましょう。午後は空いていますので、落ち着いて写経が行えます。

坐禅の会

九月二十二日(土) 午後五時〜七時

定員三十名 参加費

五〇〇円也

本堂にて坐禅を行います。定員になり次第、募集を締め切らせていただきます。

合同大般若法要

九月二十五日(火)

午前十一時

法要料 五、〇〇〇円也

心願が成就し、より一層の御加護を頂くために、皆さんとご一緒にお上げする御礼の法要です。

十月の行事 御縁日大法要

歓喜講祈祷会

十月十五日(月)

午前十一時

講金 三、〇〇〇円也

祈祷のご案内

聖天様独特の供養法である浴油供は、密教の中で最も深秘の法とされています。この供養法は聖天様のお力がより一層高められ、私どもが不可能と思われるような願い事でも、尊天様の不思議方便のお働きを得て、必ず成就させて頂けるのであります。

当山ではこの浴油祈祷を、毎朝開堂と同時に厳修しております。寺務所にて受け付けておりますので、お名前とお願いの内容、祈祷期間をお伝え下さい。またご遠方の方やお急ぎの方は、お電話やお手紙でも受け付けております。どうぞお申込みください。

祈祷料

別座祈祷 壱万円(一週間)
浴油祈祷 三千五百円(一週間)
華水供 五百円(一日)

法要案内

当山では予約にて法要を行っております。寺務所にてお問い合わせください。
百味供養 法要料 八万円

沢山のお供物をお供えし、出仕の僧侶が声明をお唱えすることで、尊天さまに御礼の供養をいたします。

大般若法要 法要料 五万円
所願成就御礼の法要として、大般若経六百巻を転読いたします。

自動車加持 法要料 壱万円
当院にてお車のお加持をいたします。当日はお車にてお越しください。

皆様からのご質問、お知りになりたいことを受け付けております。ご意見やご質問は ityou@matsuchiyama.jp までメールをお送りください。